

## 施設研修会に参加して

宮ヶ瀬ダム見学・研修記

横須賀市環境部

環境保全課 齊藤 学

秋晴れの10月18日（水）参加者12名は、小田急海老名駅に集合し、ミーティングの後、一路宮ヶ瀬ダムを目指した。首都圏最大規模の宮ヶ瀬ダムは、静かに満々と水を貯え、観光放流は迫力があり、観る者の目と耳を釘付けにした。

県民の安全と生活を守る宮ヶ瀬ダムの存在を再認識する研修会だった。

### 「ダムカレーのスパイスにビックリ！」

小田急本厚木駅にて下車、神奈中バスに乗り換え、相川大橋にて下車。徒歩で山間の道を進むと、額にうっすらと汗。竹林を抜けて、美しい形の新石小屋橋を渡って少し歩くとダムの下部入り口に到着



《宮ヶ瀬ダムを臨む》



《新石小屋橋にて》

ここからインクライン（エレベーター）に乗車して、急坂を昇り下車すると目の前が「水とエネルギー館」だった。「水とエネルギー館」の1階にあるレイクサイドカフェで昼食。宮ヶ瀬ダム名物の「ダムカレー」を注文。カレーは、スパイスが効いてピリリと辛く、ちょっとびっくりしたけど美味でした。

## 「水とエネルギー館」でダム of 歴史を学ぶ」

昼食後、「水とエネルギー館」内の展示コーナーを見学した。

宮ヶ瀬ダムは、神奈川県 of 中央部を流れる相模川 of 支川である中津川にあり、集水面積 213.9 km<sup>2</sup>、総貯水容量 1 億 9300 万 m<sup>3</sup> の首都圏最大規模 of ダムであり、そして、「洪水 of 調整」「水道水 of 供給」「河川環境 of 改善」「発電」を目的として建設（1984 年着工、2001 年完成）され現在に至っています。



《満々と水を貯えるダム湖》

## 「観る者を圧倒する放水」

「水とエネルギー館」の見学を終え、14 時から始まる「観光放流」見学の為、エレベーターでダム下に降りる。エレベーター下出口（監査部）通路はひんやりとして、流石にダム of 水を抱え込んでいるのだな！と感じさせられる。

所詮、観光のための放流だろうと高を括ってみていたら、豈図らんや、いざ放流が始まると、轟音と地響きが観る者の心と体を圧倒した。

勢いよく流れ落ちた水は新石小屋橋方面へと静かに流れ下って行った。



《轟音を発しての放水》



《放水後の新石小屋橋方面を見る》

日頃より、横須賀市地域の水質保全を推進する当協議会としても、「県民の安全と生活を守る」宮ヶ瀬ダムの現地を訪れ、直接自分の目でみて、改めて“水と自然の大切さ”を再認識する研修会でもあった。